

1か月予報 全般ウェブ解説会報資料

2026年9月10日

予報期間：9月12日～10月11日

特に注意を要する事項

西日本では、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北・東日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、期間の前半は平年に比べ晴れの日が少なく、期間の後半は平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

全般1か月予報(確率)

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	10:30:60	30:40:30 30:40:30	30:30:40 30:30:40	
東日本	日本海側 太平洋側	10:40:50	20:40:40 20:40:40	40:30:30 40:30:30	
西日本	日本海側 太平洋側	10:30:60	30:40:30 30:40:30	30:40:30 30:40:30	
沖縄・奄美		30:40:30	40:30:30	30:30:40	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	10:30:60	20:30:50	10:30:60
東日本	10:40:50	20:30:50	10:40:50
西日本	10:20:70	10:30:60	20:30:50
沖縄・奄美	30:50:20	20:50:30	30:40:30

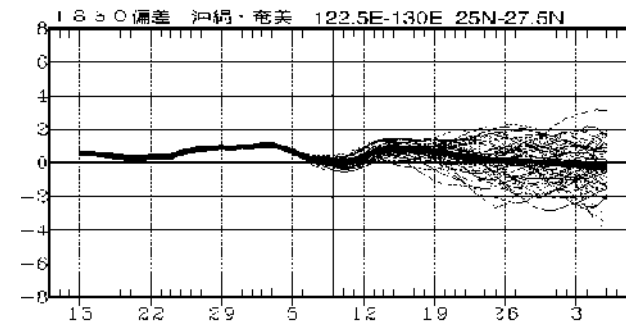
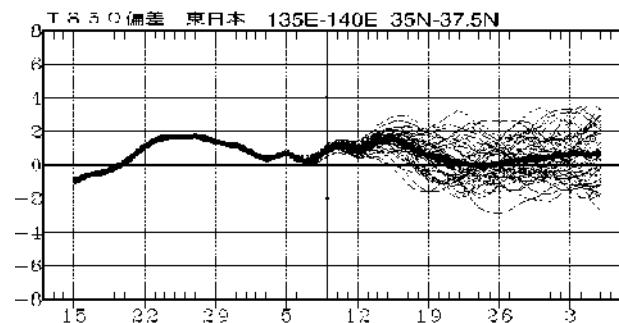
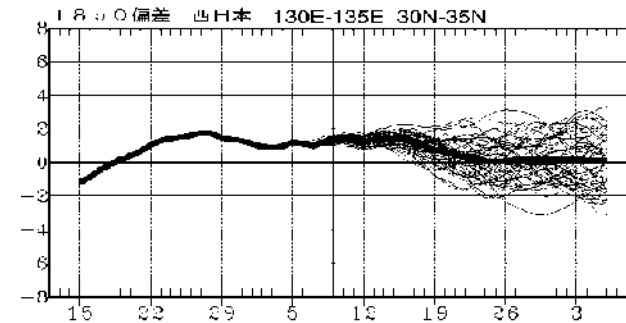
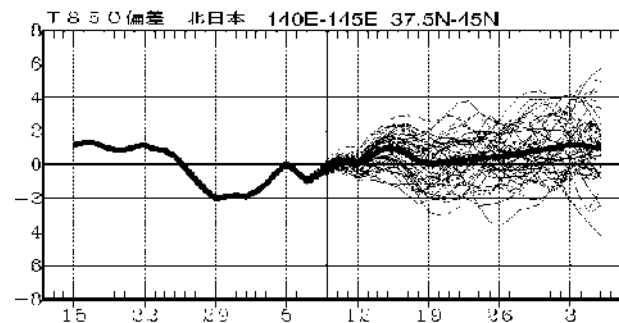
全般1か月予報のポイント

- ・北・東・西日本の向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高いでしょう。特に、西日本では、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。
- ・東日本の向こう1か月の降水量は、活動の活発な秋雨前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年並か多いでしょう。

各週における天候のポイント(気温)

	1週目(9/12～9/18)	2週目(9/19～9/25)	3～4週目(9/26～10/9)
想定される天候(気温)	北・東・西日本は高温で、西日本はかなりの高温。沖縄・奄美は平年並。	北・東・西日本は高温。沖縄・奄美は平年並。	北・東・西日本は高温。沖縄・奄美はほぼ平年並。
根拠	北・東・西日本は高気圧周辺の暖かい空気が流れ込みやすい。 (P12,P13参照)	北・東・西日本では暖かい空気に覆われやすい。 (P12,P13参照)	北・東・西日本では暖かい空気に覆われやすい。 (P12,P13参照)

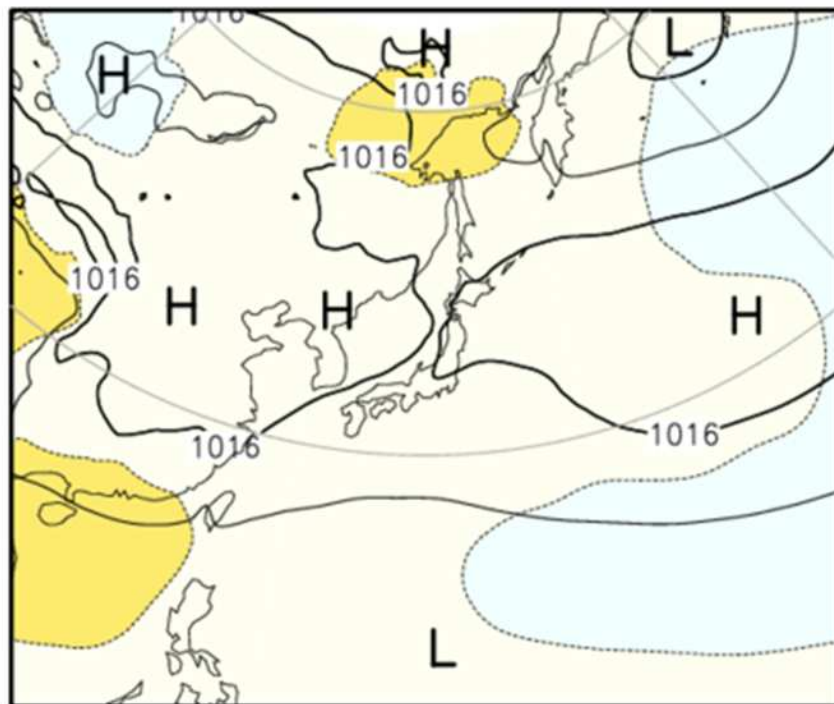
850hPa気温 偏差時系列



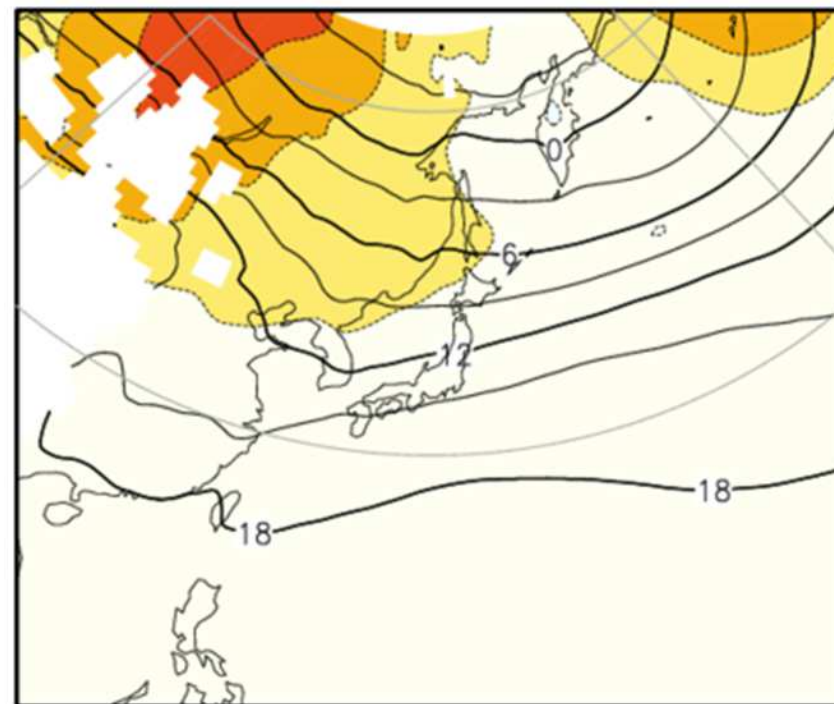
各週における天候のポイント(天気)

	1週目(9/12～9/18)	2週目(9/19～9/25)	3～4週目(9/26～10/9)
想定される 天候 (天気)	北日本では、天気は数日の 周期で変わるでしょう。 東・西日本では、活動の活 発な秋雨前線の影響を受け やすいため、平年に比べ晴 れの日が少ないでしょう。 沖縄・奄美では、平年と同 様に晴れの日が多いでしょ う。	北・東・西日本では、天気は 数日の周期で変わるでしょ う。 沖縄・奄美では、平年と同様 に晴れの日が多いでしょう。	北・東日本では、天気は数 日の周期で変わるでしょう。 西日本では、天気は数日の 周期で変わりますが、高気 圧に覆われやすいため、平 年に比べ晴れの日が多いで しょう。 沖縄・奄美では、平年と同様 に晴れの日が多いでしょう。
根拠	活発な秋雨前線の影響を受 けやすいため、東・西日本 で多雨・寡照。 (P10-P13参照)	平年と同様の天候。 (P10-P13参照)	西日本と沖縄・奄美では、高 気圧に覆われやすい。この ため、西日本は少雨傾向・ 多照傾向。沖縄・奄美は少 雨傾向。 (P10-P13参照)

海面気圧(1か月)



上空約1500mの気温(1か月)

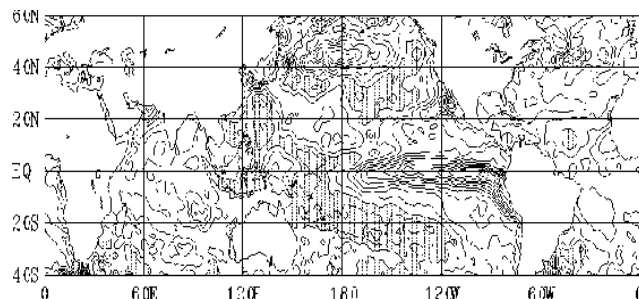


1か月平均の海面気圧(左図)は、日本付近は、日本の東海上の高気圧と大陸の高気圧の間の気圧の谷となっています。このため、東・西日本では、期間のはじめを中心に高気圧周辺の暖かく湿った空気が入り、活動の活発な秋雨前線の影響を受けやすいでしょう。期間の後半は、西日本や沖縄・奄美を中心に次第に大陸の高気圧に覆われやすくなるでしょう。

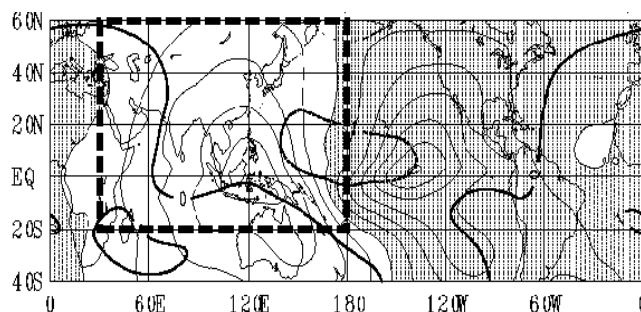
上空約1500mの気温(右図)は、北日本中心に平年より高く、北・東・西日本は暖かい空気に覆われやすいでしょう。

予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

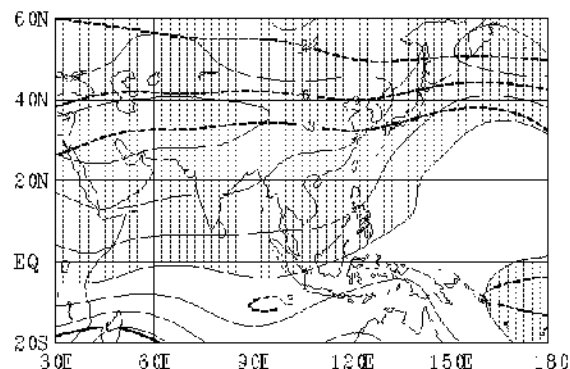
SST偏差



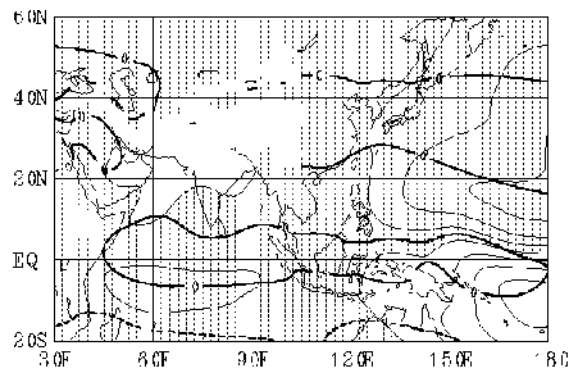
200hPa速度ポテンシャル



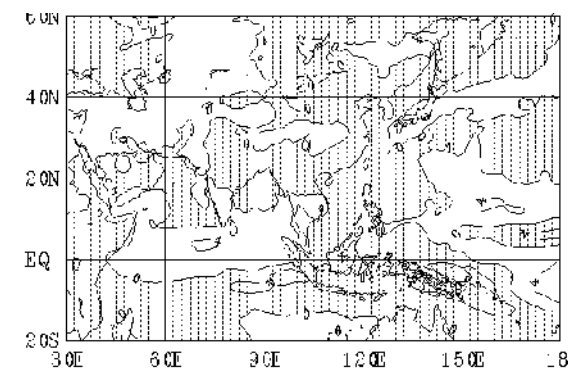
200hPa流線関数



850hPa流線関数



降水量偏差



SST偏差は、太平洋熱帯域の中・東部とインド洋で正偏差、太平洋熱帯域の西部で弱い負偏差。

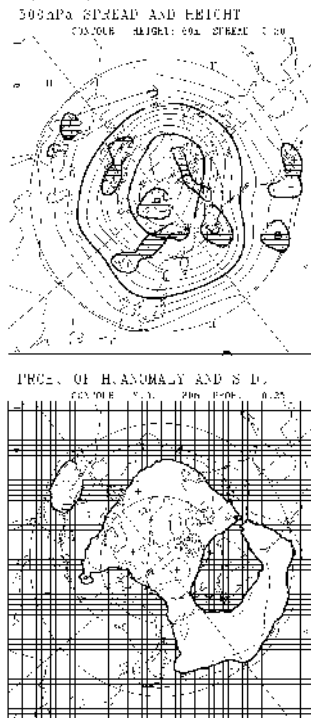
200hPa速度ポテンシャルは、熱帯の対流活動に対応して太平洋熱帯域の中部から東部で上層発散偏差、インドネシア付近を中心に上層収束偏差。

200hPa流線関数は、熱帯の対流活動に対応して、日付変更線付近を中心に高気圧性循環偏差。中東の北部から中央アジアを中心に低気圧性循環偏差。日本の東で相対的な高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数は、日付変更線付近からフィリピンの東にかけて低気圧性循環偏差。

降水量は、赤道域の日付変更線付近やミクロネシア付近、インド洋赤道域の中部で多雨偏差。インドネシアからメラネシア付近で少雨偏差。

予報資料の解釈(1か月) 北半球循環場

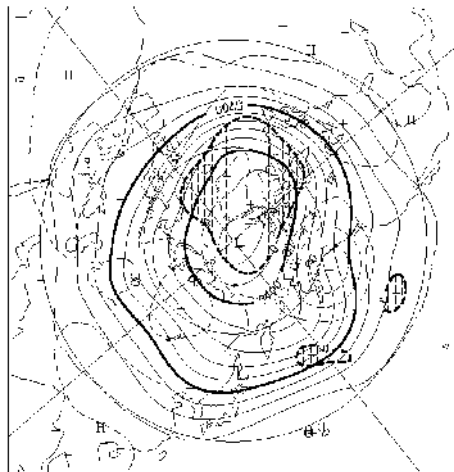


500hPa高度は、極域からグリーンランド周辺にかけて極渦が強く負偏差となっているほかは、広く正偏差が広がる。中央シベリアでリッジが強く、日本付近は日本谷傾向ながら、北日本以北を中心とした正偏差で高偏差確率50%以上の領域に覆われる。日本付近でのスプレッドは比較的小さい。

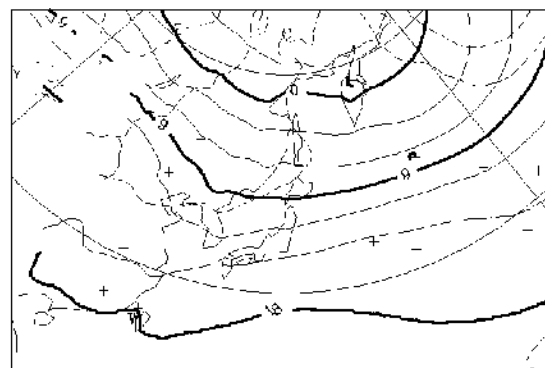
850hPa気温は、北日本中心に正偏差。沖縄・奄美では平年との隔たりは小さい。

海面気圧は、日本付近は、日本の東海上の高気圧と大陸の高気圧の間の気圧の谷となっている。後半は西日本や沖縄・奄美を中心に大陸の高気圧に覆われやすくなる。

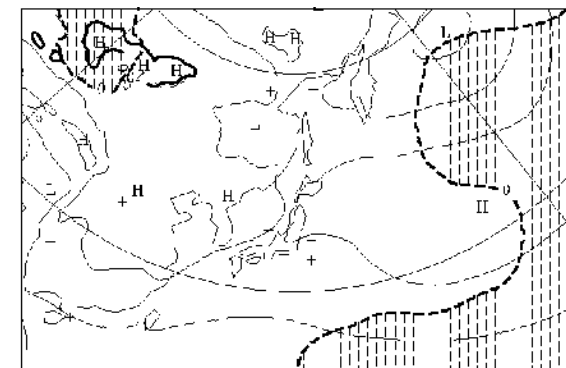
500hPa高度



850hPa気温

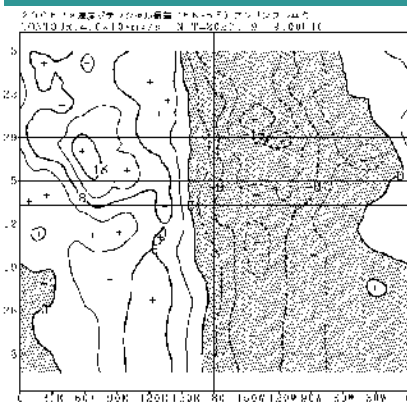


海面気圧



予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動

200hPa速度ポテンシャル偏差時系列



200hPa速度ポテンシャルは、期間を通して太平洋熱帯域の中部を中心に上層発散偏差、インドネシア付近は上層収束偏差で、季節内変動は不明瞭。

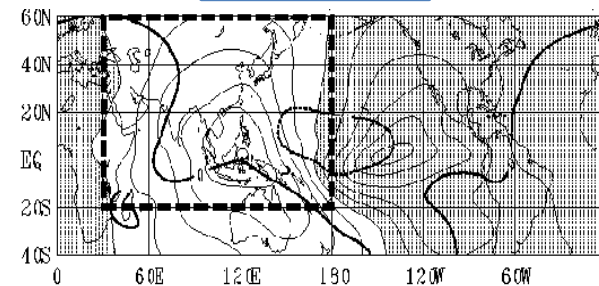
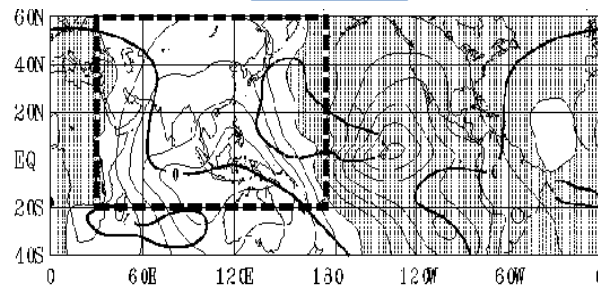
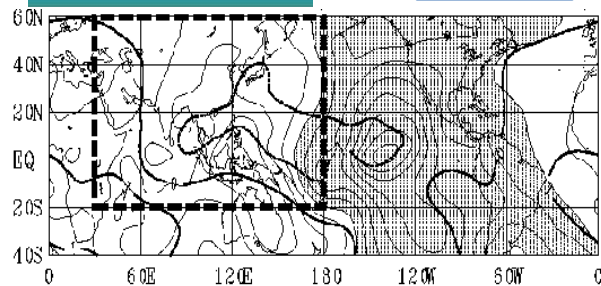
降水量は、期間を通じて、日付変更線付近の赤道域、ミクロネシア付近、インド洋赤道域で多雨偏差。インドネシア付近で少雨偏差。1週目はインドシナ半島からフィリピンの南東で多雨偏差。日本付近は1週目は東・西日本で多雨偏差だが、3～4週目は西日本以西を中心に少雨偏差。

200hPa速度ポテンシャル

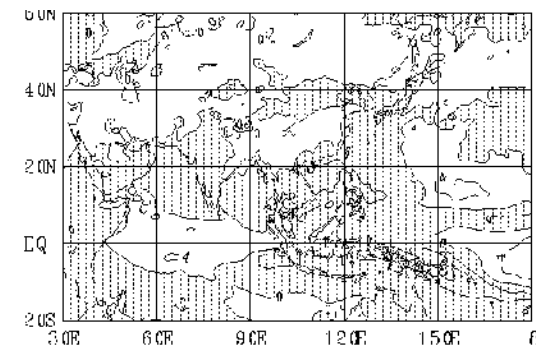
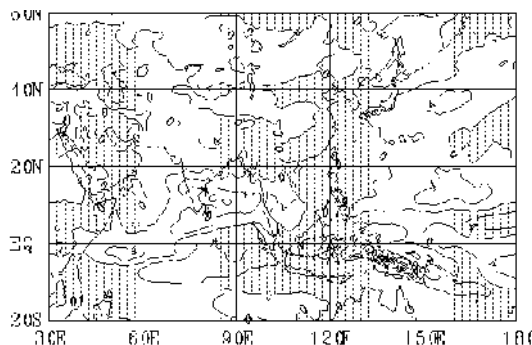
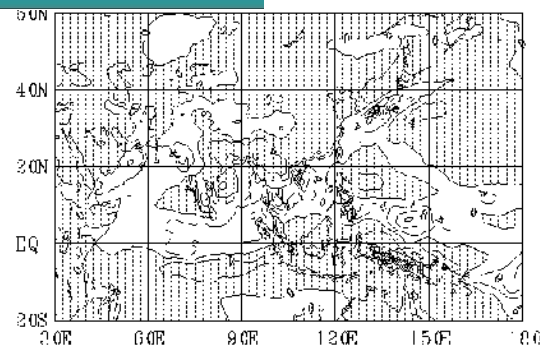
1週目

2週目

3～4週目



降水量偏差



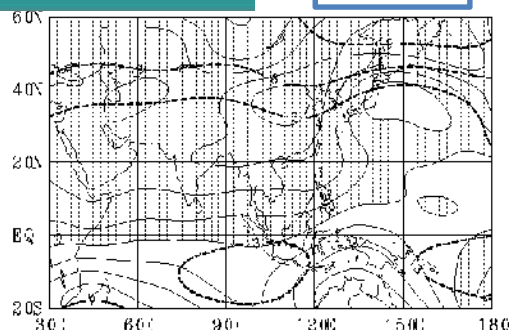
予報資料の解釈(各週) 熱帯循環場

200hPa流線関数は、期間を通して中東の北部から中央アジアを中心に低気圧性循環偏差、日付変更線付近では2週目以降、高気圧性循環偏差。北緯40度帯では1週目は波列が見られ、日本の東海上で高気圧性循環偏差、華北付近で低気圧性循環偏差。2週目は日本付近から東海上で、3~4週目には華北付近で低気圧性循環偏差。亜熱帯ジェット気流は期間を通してユーラシア大陸で南偏し、日本付近でも2週目以降は南偏する。

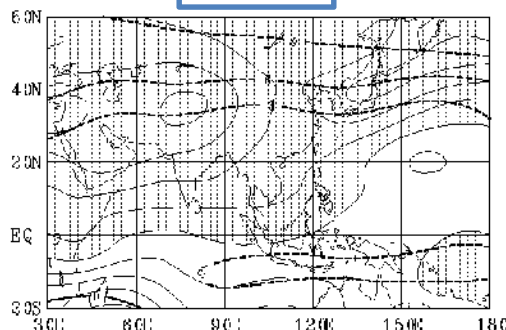
850hPa流線関数は、1週目はフィリピンの東で、2週目以降は日付変更線付近で、3~4週目は日本の南東海上で低気圧性循環偏差が明瞭。

200hPa流線関数

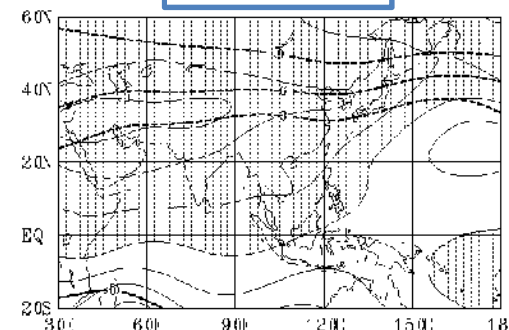
1週目



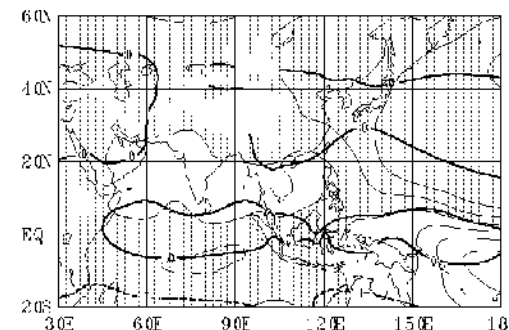
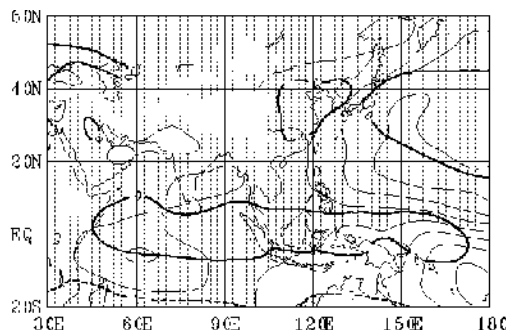
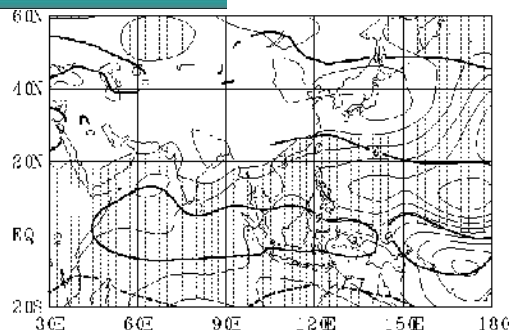
2週目



3~4週目



850hPa流線関数

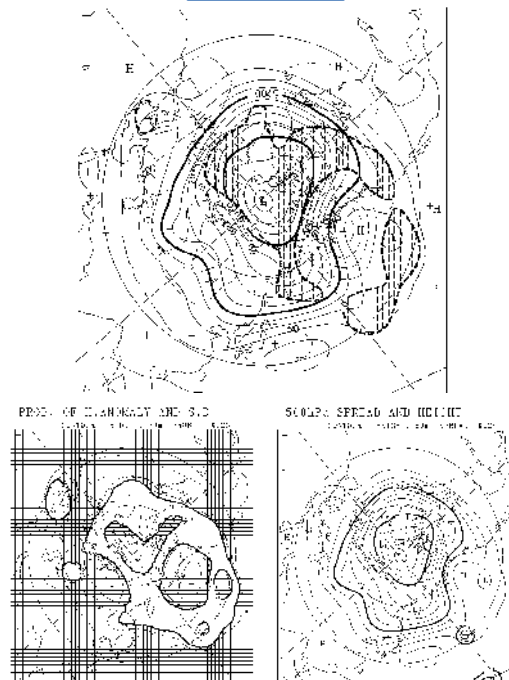


予報資料の解釈(各週) 北半球循環場

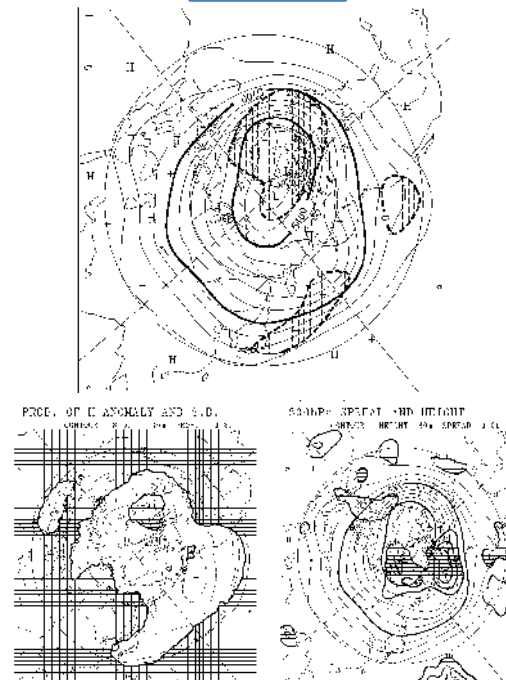
500hPa高度は、中高緯度帯で1週目は波列が見られ、華北付近でトラフ、日本の東海上でリッジとなり、日本付近は西谷。また、日本の南東海上で亜熱帯高気圧が強い。日本付近には暖かく湿った空気が入りやすい。2週目はバイカル湖付近でリッジ、日本付近では逆位相気味のトラフとなる。3～4週目も、引き続き、バイカル湖付近でリッジ、朝鮮半島付近でトラフとなり、日本谷傾向が持続する。日本付近ではスプレッドが小さく、日本谷傾向は信頼して考える。ただし、北緯50度帯以北のスプレッドが大きくなっており、高緯度側のトラフやリッジの位置や強さには不確実性があり、北日本を中心とした高温をやや弱めて、ガイダンスの高温確率を下げた。

500hPa高度

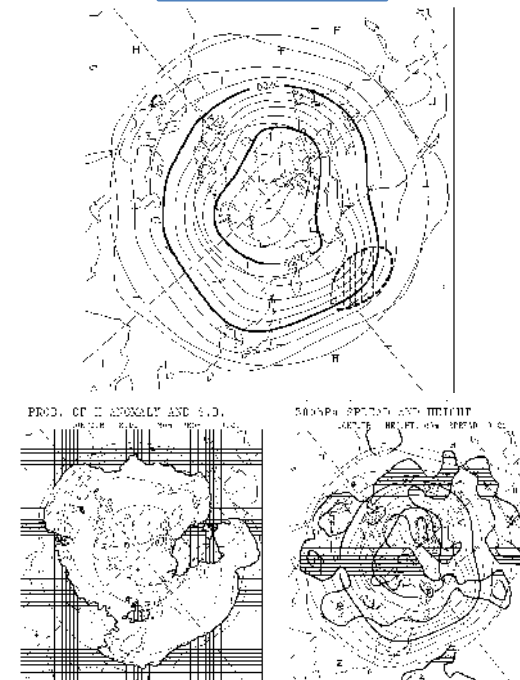
1週目



2週目



3～4週目



予報資料の解釈(各週) 日本周辺循環場

850hPa気温は、日本付近では、1週目は正偏差、2週目は平年との隔たりは小さい。3～4週目は北日本を中心に正偏差。東シナ海付近は平年との隔たりは小さい。

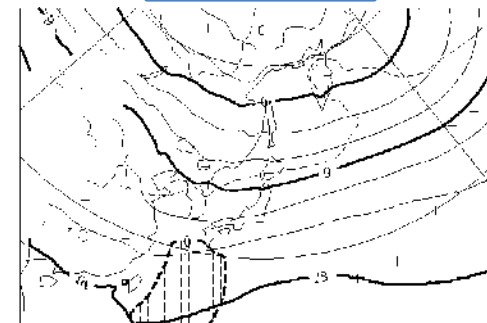
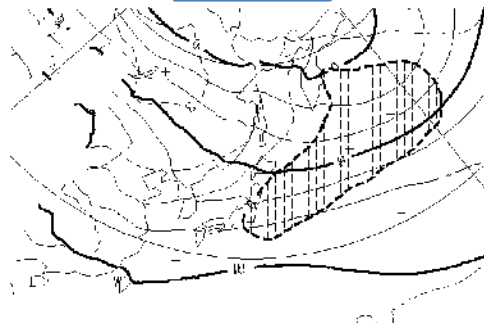
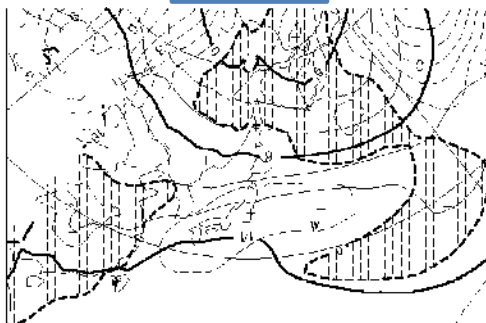
海面気圧は、1週目は日本の東海上で高気圧が強い一方、日本付近は気圧の谷となり、東・西日本を中心に高気圧周辺を吹く暖かく湿った空気が流れ込みやすい。2週目は日本付近の気圧の谷は不明瞭となり、西から次第に高気圧に覆われる。日本の南東海上から日本の東に延びる低圧部は熱帯じょう乱を含む湿った空気の流れに対応し、その動向によっては東・北日本でその影響を受けやすくなる可能性がある。3～4週目は、日本の東の高気圧は弱まり、西日本から沖縄・奄美では大陸の高気圧に覆われやすくなる。

1週目

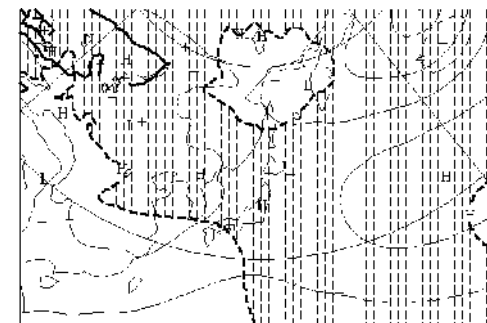
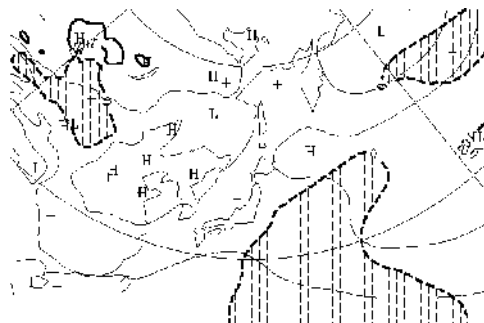
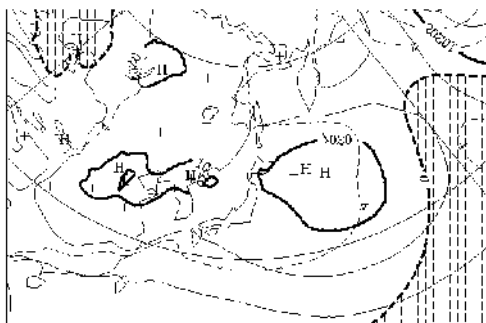
2週目

3～4週目

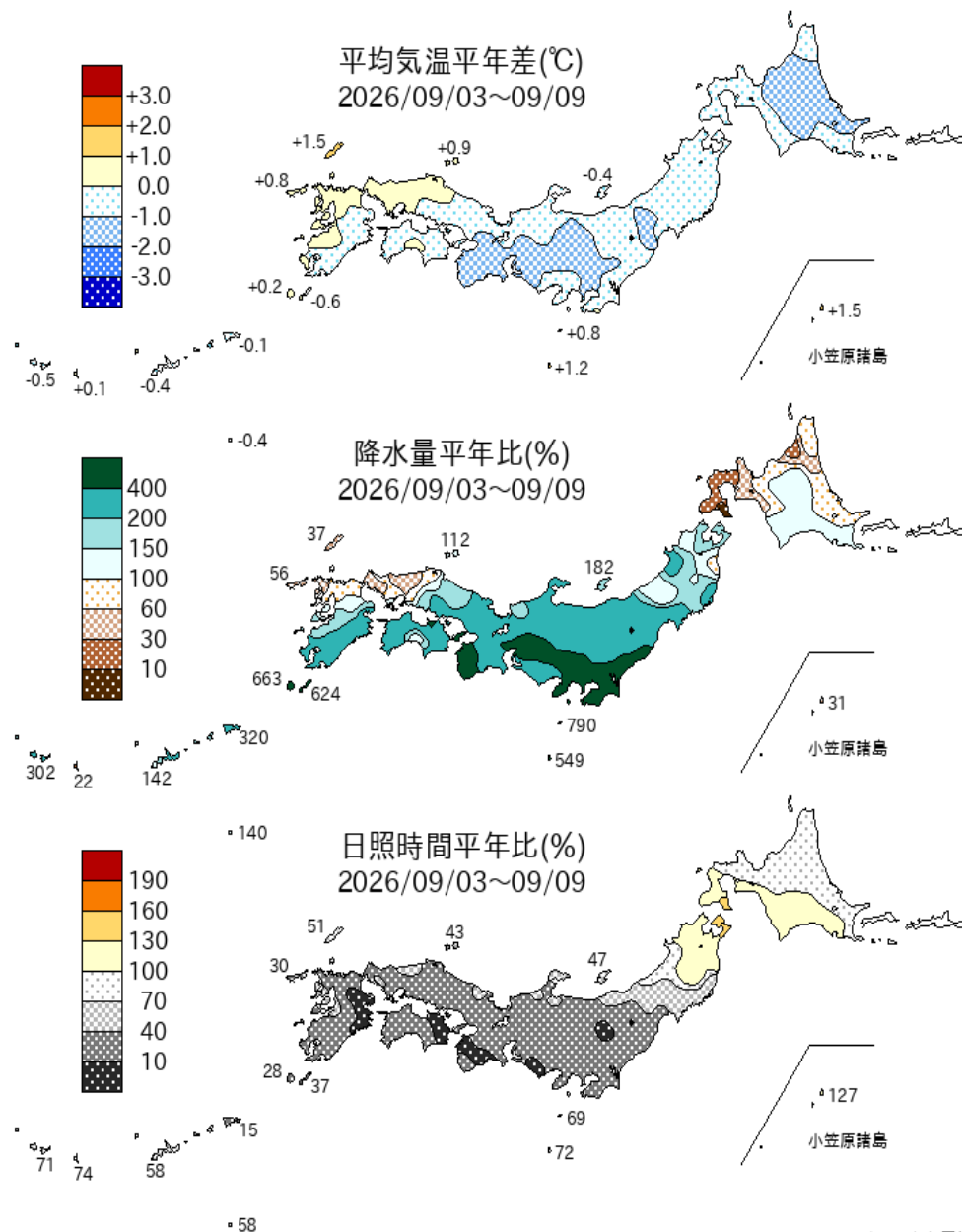
850hPa気温



海面気圧



(参考)最近1週間の天候経過



最近1週間(9月3日~9月9日)は、台風第24号及びそれから変わった熱帯低気圧や湿った空気の影響、また、これらによって活発化し本州南岸に停滞した秋雨前線の影響により、東北南部以南では太平洋側を中心に曇りや雨の日が続きました。4日から5日には鹿児島県で、8日には愛知県と岐阜県で線状降水帯が発生し、記録的な大雨となった所があったほか、6日から7日には伊豆諸島を中心に記録的な大雨となった所がありました。また、東北北部から北海道地方では、移動性高気圧に覆われ晴れた日もありましたが、3日から4日と7日頃に低気圧が通過し、太平洋側中心に雨となりました。このため、北海道地方や西日本日本海側の一部を除き、全国的に降水量が平年を上回り、東日本太平洋側を中心に平年の4倍を上回った所がありました。日照時間は北日本を除き、全国的に平年を大きく下回りました。北日本を中心に冷涼な空気に覆われたことや、天気がぐずつしたことにより、西日本日本海側など一部を除き、全国的に気温は平年を下回りました。